

岡崎・豊田・瀬戸・春日井の四都市の音楽団体による

第2回

愛環「千人の第九」

ベートーヴェン作曲「エグモント」序曲／「交響曲第九番」



演奏：愛環音楽連盟

岡崎フィルハーモニー管弦楽団 豊田楽友協会管弦楽団 春日井市交響楽団
岡崎「第九」をうたう会 豊田市民合唱団 瀬戸第九合唱団 春日井第九合唱団

指揮：アレクサンダー・ドゥルカー

ソプラノ：バーバラ・ハイマン アルト：アトリネー・シモニアン
テノール：セザール・グティエレッツ バリトン：アンドリュー・マーフィー

2000年9月3日(日) 13:00開場 14:00開演

愛知県芸術劇場大ホール

入場券 2,500円 全自由席／消費税込

愛環「千人の第九」記念 ガラ・コンサート

第九ソリストたちによる オペラ・アリアの夕べ

日時：2000年8月31日(木) 18:15開場 19:00開演

会場：しらかわホール (名古屋・伏見)

入場券：4,000円 (連盟会員：2,000円) 全自由席

チケット取り扱い：しらかわホール・チケットぴあ・各参加団体会員

主催：愛環音楽連盟・中日新聞社・中部日本放送

後援：愛知県・愛知県教育委員会・岡崎市・豊田市・瀬戸市・春日井市・各市教育委員会
(財)2005年日本国際博覧会協会・愛知環状鉄道・瀬戸市文化協会

協賛：トヨタ自動車株式会社・中部電力株式会社

チケット取り扱い：愛知県芸術文化センタープレイガイド・チケットぴあ・各参加団体会員

お問い合わせ先：愛環音楽連盟事務局 ☎0568-83-1537 上林方



EXPO
2005 AICHI



ごあいさつ

愛環音楽連盟会長 若月 剛一

新しい世紀は、確実に都市の世紀です。都市の環境は、文化と交通によって守られています。愛知環状鉄道で結ばれた四都市の音楽団体からなる愛環音楽連盟は、新世紀的な意味で、極めて象徴的な存在であるといえましょう。合わせて人口百万にな

んなんとする四都市には、それぞれ「第九」を歌う二百名の合唱団があり、「第九」を演奏するにたる五十名のオーケストラがあります。そのすべてが糾合すると「千人」の大音楽グループになります。今回の第2回「愛環千人の第九」もまた、前回と同じように「第九」初演の地ウィーンから指揮者と四人のソリストをお迎えしました。指揮者のドゥルカーさんは、この3月、春日井市で行われた「第2回愛環音楽祭」で、私たちのオーケストラと合唱団を指揮して、お得意のヨハン・シュトラウスをたっぷりと聴かせて下さいました。その名演奏に、満員のお客さまは驚いて、「ウィーンフィルかと思った!」。それは冗談として、今回、そのドゥルカーさんに、いまウィーンでもっとも活躍中のソリストが4人も加わるのですから、世界で最古の伝統をもつ都市の音楽家たちと新興都市のアマチュア演奏家たちによる、古くて新しいベートーヴェンの「第九」が期待されましょう。さあ、この秋、愛知県芸術劇場大ホールに、新世紀が音をたてて現われる瞬間を、ぜひ、確かめにおいで下さい。お待ちしております。



音楽と楽音とベートーヴェンの耳

愛環音楽連盟理事長 都築 正道

(中部大学教授)

「音楽」という言葉は、「音を楽しむ」ことを意味しない。「音を楽しむ」なら「楽音」でなければならぬからだ。「音楽」という成句の主語は「音」であり、動詞は「楽しむ」である。すなわち、「音が楽しむ」のだ。だが、動詞「楽しむ」は目的語を欠く。したが

って、ここでの「楽」は、他動詞ではなく、自動詞ということになる。存在論的に言えば、「音楽」は、「音自らが音自りで在ることを、音自らが楽しむ存在」である。そして、それが真の意味の「音楽存在」であるならば、「音そのものが音そのものであることを、音そのものが自ら楽しむこと」が出来るためには、私たち音楽愛好家はなにをなすべきであろうか。ひとえに、「音そのものが音そのものであることを、音そのものが自ら楽しむこと」を私たち自らの楽しみとすることである。

さて、愛環音楽連盟の演奏する「千人の第九」だ。私たちは、「音が音で在ることを自ら楽しんでいるのを楽しむ」という謙虚さで、ベートーヴェンの「第九交響曲」に对峙しようと思う。そのためには、音が「本来の音そのもの」で在るような、純粋で気高く、抑制が利き、均整のとれた自由な演奏が要求されよう。ベートーヴェンが「第九交響曲」そのものに存在を与えたとき、彼が、良く聞こえる耳をあえて必要としなかったのは、誠に、このことを私たちに伝えんがためであった。

出演者紹介



●指揮者
アレクサンダー・ドゥルカー

Alexander Drcar

1992年ウィーン音楽大学大学院卒。指揮をカール・エスターライヒャーに師事。クラゲンフルトの準音楽監督をつとめ、現在ウィーンのフォルクスオーパーを中心に活躍中。交響曲や協奏曲の指揮のほか、「フィデリオ」「リゴレット」「セヴィリアの理髪師」「ボエーム」等オペラのレパートリーも多い。1997年12月春日井第九実行委員会の招聘により初来日。昨年1月にはウィーン室内歌劇団と共に来日して、本場の喜歌劇「こうもり」を上演。本年3月5日には第2回愛環音楽祭で、「こうもり」抜粋ほかヨハン・シュトラウスⅡ世の作品を中心としたプログラムを指揮して好評を博した。今回はソリストを全員ウィーンから引き連れての来日であるので、息の合った好演が期待される。



●ソプラノ
バーバラ・ハイマン
Barbara Heimann

多くの奨学金やディプロマをえて、いまウィーンを中心に活躍中。これまでに《フィガロの結婚》の伯爵夫人(プレゲンツ)やケルビーノ(ヴァイマル)を歌い、来年カールスルーエの歌劇場でリチャルト・シュトラウスの《サロメ》のタイトルロールを予定。ロッシニやマーラーの歌曲集も得意とする。



●テノール
セザール・アウグスト・グティエレッツ
Cesar Augusto Gutierrez

コロンビアで学び、ウィーン音楽大学に進む。今年行われたヒルデ・ザテック・コンクールで優勝。ウィーンを中心にボンやパリなど、多くの都市でオペラやコンサートに出演。《セヴィリアの理髪師》のアルマヴィーヴァ伯爵や《椿姫》のアルフレードなど、多くの主役を演じる。



●アルト
アドリーネ・シモーニアン
Adrine Simonian

《リゴレット》のマッダレーナや《セヴィリアの理髪師》のロジーナや《コジ・ファン・トゥッテ》のドラベッラなどのプリマを始め、ウィーンのムジークフェラインで「第九」のソロをつとめるなど、多くのオペラやコンサートに出演。ウィーンを中心に現代音楽の世界初演にも出演している実力派。



●バス
アンドリュー・マーフィ
Andrew Murphy

アイルランドのダブリンの音楽大学で学ぶ。ヨーロッパの各地や日本・中国などでオペラやコンサートに出演。特に《ニュルンベルクのマイスター・シンガー》のベックメッサーははまり役でワーグナーの孫娘エヴァ=マリアから「理想的なベックメッサー」と絶賛を受けた。

愛環音楽連盟の紹介



愛知環状鉄道によって結ばれた4都市(岡崎市・豊田市・瀬戸市・春日井市)で活躍する岡崎フィルハーモニー管弦楽団・岡崎「第九」をうたう会・豊田楽友協会管弦楽団・豊田市民合唱団・瀬戸第九合唱団・春日井市交響楽団・春日井第九合唱

団の7団体が、1997年の春に「愛環音楽連盟」を設立しました。

音楽好きが大勢集まって、「人類愛」と「音楽への愛」で結ばれた「愛の環」を大切にしながら、4都市の音楽ファンのために、大きな演奏会を開こうというものです。これまで主に次のような演奏会を開催してきました。

- 1997年9月4日 愛環第九ソリストによる「オペラ・アリアの夕べ」
電気文化会館ザ・コンサートホール
- 1997年9月7日 愛環「千人の第九」 愛知県芸術劇場大ホール
(指揮 クルト・ラプス、ソリストはウィーンから)
- 1998年9月6日 第1回愛環音楽祭 瀬戸市文化センター文化ホール
(交響曲5番「運命」・「ふるさと」の四季)
指揮 加藤完二・吉川 朗)
- 1999年5月23日 第1回市民オーケ・フェスティバル 春日井市民会館
(ブラームス「ヴァイオリン協奏曲二長調」ほか
指揮 佐々木 修 センチュリー室内交響楽団)
- 2000年3月5日 第2回愛環音楽祭 春日井市民会館
(ヨハン・シュトラウスⅡ世「こうもり」抜粋ほか
指揮 アレクサンダー・ドゥルカー)